

第2部 基本方針別の施策

基本方針1「未来を拓く力をはぐくむ学校教育の充実」の施策

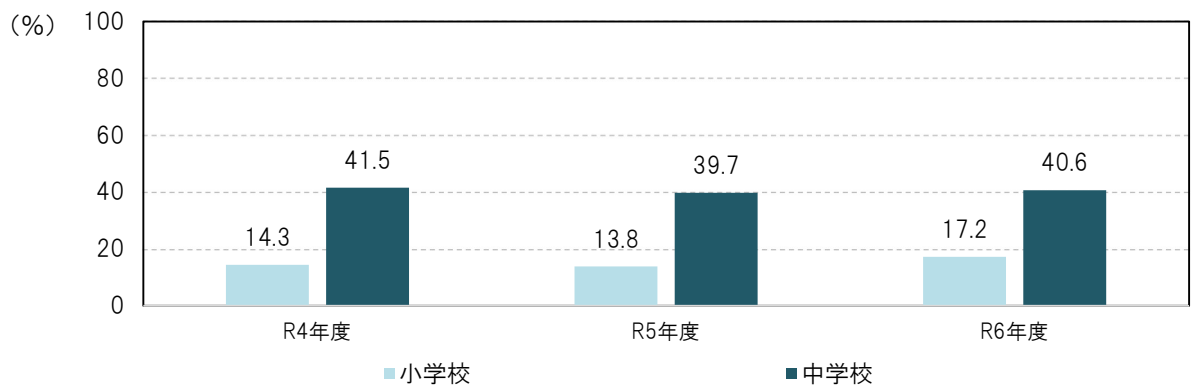


図1 教職員の時間外在校等時間の割合（1か月当たり45時間を超える教職員の割合）

出典 学務課

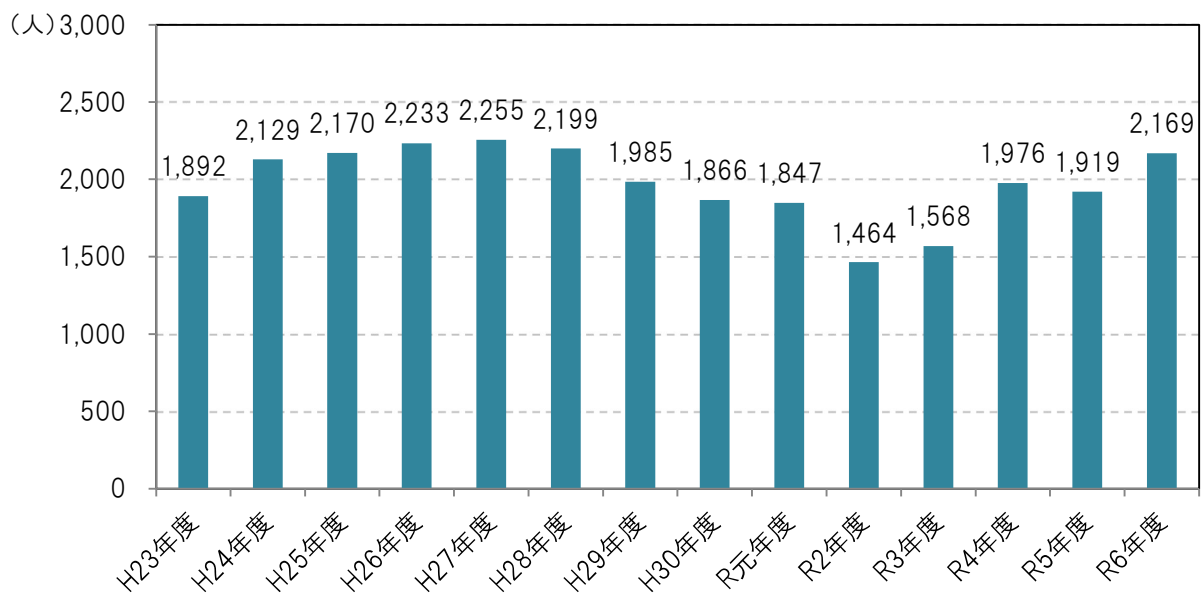


図2 教職員の研修参加者数

出典 教育センター

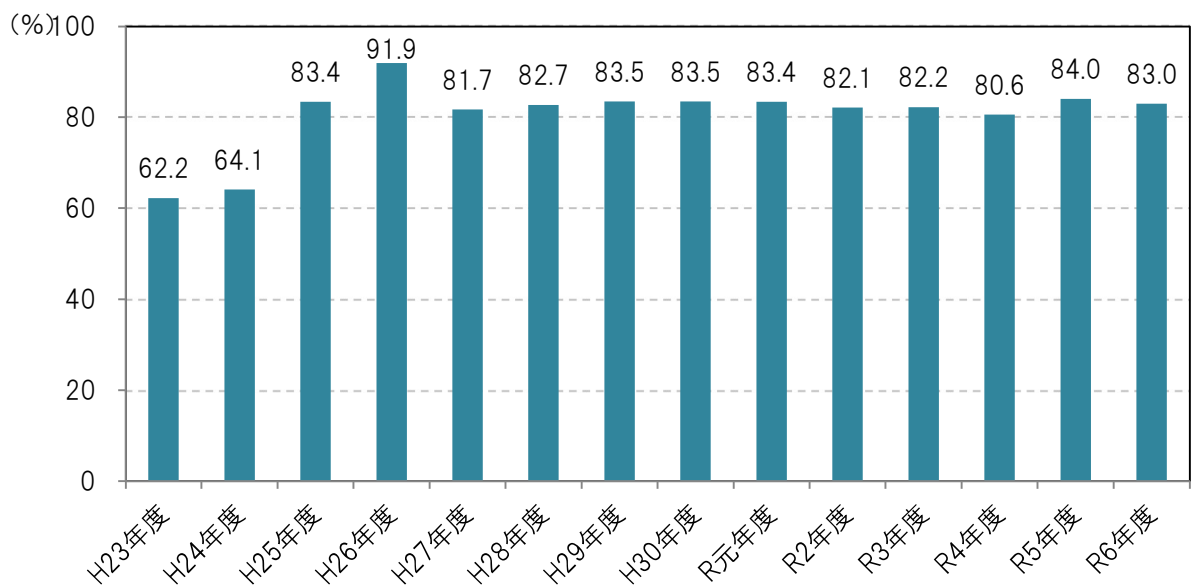


図3 研修・講座に参加して効果があると感じ、実践しようと思う教職員の割合

出典 教育センター

2) 施策

教職員の働き方改革²⁾と校務DX³⁰⁾による子どもと向き合う環境づくり（重点施策）

児童・生徒の学びの質の向上を目指し、適正な人材を確保するとともに、教職員の育成や計画的な配置を行います。

また、教職員の意識改革を進めるとともに、業務の効率化やデジタル化など働き方の見直し³⁴⁾を学校・地域・教育委員会が一体となって進め、教職員が教育活動に専念できる体制を整備します。

教育活動に役立つ研修の実施並びに情報の収集及び提供

教育関係機関等との連携により、教育活動に役立つ研修の実施から情報収集・提供までを一連で捉え、教職員の人材育成及び資質向上に向けた取り組みを進めます。

写 真

学びあい 育ちあい 支えあう ちがさきの教育

効果的な ICT 活用で 豊かな「学びあい」の 時間を創る

茅ヶ崎市の小・中学校は、令和2（2020）年度末に1人1台端末としてiPadを導入しました。令和6（2024）年度全国学力・学習状況調査によると、茅ヶ崎市の1人1台端末の活用状況（週3回以上の使用）は、小・中学校ともに全国平均を上回っています。

課題

茅ヶ崎市の小・中学校での1人1台端末の活用の方針として、令和5（2023）年度までの3年間は、まず「積極的に使用すること」に注力し、主に授業での教員と児童・生徒、児童・生徒同士の考えや意見の「共有」に活用してきました。積み重ねた実践を踏まえ、ICTのより効果的な活用方法について、多くの教員が日々、模索しています。

効果的な ICT 活用で学びを深める

小学校での一例として、教員が1人1台端末で授業支援システムを使って児童に考え方を示し、児童はシステム上で意見を整理し、学級全体で児童同士の考えをつなげていくことで、学びを深めています。

一部の学校ではデジタルドリルの試行を行っています。児童が1人1台端末で、問題に取り組み、教員はリアルタイムで回答状況を確認できます。教員は回答状況から補足説明を行うなど、児童の理解度に合わせたフォローを行っています。

将来的には発達の段階に応じた生成AIの活用も視野に入れ、個別最適な学びや協働的な学びを充実する効果的なICT活用を「ちがさきの教育」として推進していきます。